



ブラームス記念館正面にて

「神の栄光のためにのみ、これが人生の最終目的である」ヨハネス・ブラームス1822年5月7日 シュベック通り60番地に生まれる。



教会の英会話レッスン

工藤篤子メールマガジン12号 2002.06.26

こんにちは。工藤篤子です。

ハンブルグは美しい5月を過ぎたら、6月は青空と雨が一日に何度も繰り返す日が多くなりました。この6月はまた麦が花開く時です。イネ科アレルギーの私は、くしゃみ、鼻水と格闘、薬を飲むと、眠たくなるので、今度は睡魔との格闘です。睡魔にうち勝つ秘訣は唯一、ポジティブに、そしてアクティブに働くことです。

2002年W杯

ドイツは25日が韓国との準決勝です。ところがおもしろいことに、私の回りのドイツ人の3?4人に一人が、なんと韓国を応援する、というのです。理由を聞いたら異口同音に、「ドイツのチームは傲慢だ。」と言うのですね。ナチスによる残虐行為の反省以来、理性的に生きることをモットーにしているドイツ人は、傲慢さや圧力的な姿勢に敏感です。極端になってもいけません、私はドイツ人がこのような態度に敏感であり続けて欲しいと願っています。

ところで先週いただいた黒田禎一郎牧師からのメルマガから、韓国チームには何と6人もクリスチャンがいることが分かりました。嬉しいですね。ドイツのチームにもひとりいます。14番のGerhald Azamoahです。ちなみにブラジルでは3番のLucioです。皆さんにこのメルマガが届く頃には、韓国ードイツ戦の結果がもう出ていると思いますけれど、勝ち負けよりも、このクリスチャン選手たちが主の栄光を現すために良いプレーをして欲しいと心から祈っています。

近況報告

先週はいくつかの原稿書きに専念しました。

ひとつは月刊紙「ミッション・宣教の声」に掲載させていただいている『欧州の賛美を辿って』です。数ヶ月前から、初代教会からの賛美の歴史を辿って書き始めましたが、下調べが膨大です。一時は、うかつにも決めてしまったこのテーマに後悔したりもしました。というのは、教会音楽の歴史を把握するには、教会史をまず学ばねばなりません。そして教会史を理解するには、歴史、文化、思想、政治、芸術一般も理解してゆかなければならないからです。

けれども最近、少しずつ学ぶにつれて、歴史の中に働いてこられた神の御手とマスタープランが見えてきたのです。今、やっと中世の賛美に辿り着きました。教会の霊性は賛美の力と直結しています。教会が霊的に燃えると、賛美も力強くなります。そうやって見てゆくと、主に多くの賛美が捧げられるようになった今は、まさしく教会の全盛期なのではないでしょうか。主の日は近い、と思いました。

6月22日に、ブレーメン近郊の町、ローテンブルグ・ビュメに住むハインリッヒの50歳の誕生パーティーに招かれました。ハインリッヒ（ドイツ人）は私のピアニストの友人であるラニー（中国系インドネシア人）のご主人です。今回の招待客はクリスチャンのみでしたので、御霊にある素晴らしい交わりを持つことができました。またラニーからインドネシアの教会の状況も聞きました。迫害下にあるインドネシアの教会では、着実にリバイバルの火が燃え続けているそうです。

最近考えさせられたこと

最近、2回も殴り合いを目の当たりにしました。一回目は、3週間前にマドリッドのマクドナルドで食事をしていた時のことでした。目の前で、職員が12、13歳の男の子を殴ったのです。理由は、この男の子が食事もしないでうろうろしていたからです。まわりの客たちが一斉に「やめろ！！」と叫び立ち上がりました。理由が何にせよ、暴力行為はよくない、おまけに子供を殴るなんてとんでもない、と皆思ったのです。けれども、私はただ唾然としていました。子供を殴る職員の気迫にすくんでしまったのです。後で、他の客たちのように、即座に行動に出られなかった自分をほんとうに恥ずかしく思いました。

2回目は、先週、ハンブルグでのバスの中でした。後ろでアラブ人らしい二人の若者が殴り合いを始めました。このとき私は叫びました。「やめなさい！！」。バスの運転手も乗客も皆叫びました。そして、後ろに座っていた若い大きな女性が、この二人の間に割り込んで殴り合いを止めました。彼女の行動には感服しました。

不正行為の前には、主にあって、すぐに正しい行動に出られる勇氣ある者でありたいと願っています。

これからの予定

6月29日（土）聖書を読む会（Kさん、Sさん、Tさんのためにお祈り下さい。）

7月6日（土）FGEC 教会レディースランチオン

7月7日（日）FGEC 教会伝道パーティー（私も賛美をいたします。）

どうぞお祈り下さい。また、教会の英会話レッスンで一緒のベアベルの救いのためにもお祈りください。

どうぞ健やかな日々をお過ごし下さい。

また、2週間後にメールマガジンでお会いしましょう。 工藤篤子